

8月の講習会ではお世話になりました。

今回参加を決めたのは、ことばの教室担当になって、始めて吃音の児童を担当したことと、テーマである「子どものレジリエンスを育てる」に興味をもった殻です。2日間の講習会を通して、吃音に対する取り組み方、レジリエンスの考え方などを、しっかり学ぶことができました。

伊藤先生や石隈先生のお話を直接聞くことができたこと、お二人の対談を聞くことができたこと、グループワーク、どれも勉強になりました。ことばの教室での方向性に悩んでいた部分もあったので、牧野先生の「ことばの教室は、生き方研究所」という言葉にも勇気づけられました。

この2日間で得たものを職場や、子どもたちの指導へ還元していけたらと思います。

何より、伊藤先生のお考えである「あなたはあなたのままでいい」という雰囲気、会場全体に広がっていて、居心地のいい2日間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

千葉県 ことばの教室教員

想像していたより、本当にたくさんの収穫がありました。私にとって一番良かったのは、吃音があっても豊かに生きている人達に実際会えたこと、その明るく暖かい雰囲気を肌で感じる事が出来たことでした。吃音だと小学校の本読みで苦勞する。面接のときに苦勞するなどマイナスの情報ばかり見てしまい、特に思春期に苦勞するだろうから、治ってくれたらいいのに。でもそれでは、子供のありのままを受け入れていないと思いつつも、治らなかつた時の不安が大きい自分がいました。

でも、実際会った皆さん本当に明るくて暖かくて思慮深くて堂々としていて、人のために頑張っている。また、そういう方が一人ではなくてたくさんいる。吃音って、もちろんみんなすごい苦勞を乗り越えてきたと思うのですが、必ずしもマイナスだけではないと心から思えました。

また、どもる方から小さいころ親にこうしてほしかった、という意見を聞いたのもとても大きかったです。親が自分の存在を受け入れてくれない事が悲しかった。何も知らず吃音を一人でかかえていたので、真実を教えてほしかった。どもらなければいい子なのに、と条件付けが嫌だった。そばにいる親が不安だと子どもも不安になる。どもる人がどういう生き方をしているのか、子どもは意識している。かわいそうと思わないで欲しい。治って欲しいなあと思うと、非言語メッセージとして吃音は悪いものだと思ってしまうなど、心が痛むものばかりでした。

親のまなざし、親の吃音に対する考え方の影響力はすごく大きいんですね。みなさんの意見を聞いて、親がすべきことが少しずつ明確になってきました。吃音もまるごと親も受け入れ、正しい知識を持ち、どもる人がどういう生き方をしているのかを知れて、また自分だけじゃないと思えるような場に子どもを連れて行く。また、子供の幸せにつながるような情報を選択したいと思います。ただ、親が子どもの吃音を受け入れるのは本当に難しいことです。いろいろ分かっているけど、どうしても治ってほしいと思う。ただそれは、吃音の悪い面だけを見ていたことに、今回気付きました。吃音があっても本当に明るく暖かく、人のために生きている人達に会えたことが本当に良かったです。

講義の中でもたくさん参考になったことがありました。伊藤先生の、子供との関係は対等である、子供の事は子供に聞けばいい、間違ったら親も謝ればいいなど、これからの子育てに活かしたいです。当事者の立場としては、大きなお世話はいらない。出来るだけ小さな援助であって欲しい、という言葉も心に残っています。親はつい心配して大きなお世話をしがちになります。頼まれてもいないのに先生にお願いしたり、友達に何か言ったりを、良かれと思いつている。でも、それでは子供が自分で困難を乗り越えていく力を奪かもしれないし、よかれと思った配慮に傷つくかもしれない。やはり、基本は子供とは対等で、子供に相談して、聞いて、一緒に考えながら、その時に子供が望めば親も援助するという姿勢の方がいいのかなあと思いつました。

私は、子供の一番近いサポーターになれたらいいなと思いつていました。でも、困っている事ある？と聞くと弱い人間になってしまうなど、支援の難しさも知る事ができました。だから、弱いところを強くするのではなく、今あるいいところをのびし、それを問題解決に役立てていく。またサポーターではなく、子供の力を信じて、子供が乗り越える力をつけていけるように、同行者という気持ちでいきたいと思えるようになりました。

親の wants ではなく子どもの needs でという考え方も意識するようになったし、不登校の子どもにはこもる力があると仰っていたのも、どんな状況でもいいところ、子供の力というのは見つけられると、目からウロコでした。とにかく、書ききれないくらい本当に参考になりました。子どもとの接

し方も対等であると知って、自信が持てるようになったし、レジリエンスを始め、アドラー心理学、論理療法、アサーションなどこれから勉強したい事もたくさん知る事が出来ました。

本当に本当に参加して良かったです。私の人生が変わったような気分です。子供にとっても、とても幸せな情報がつまった講習会でした。ありがとうございました。

東京都 どもる子どもの保護者

手作り感、ぬくもりのある、自分たちで作りに上げていく雰囲気の回でした。私はどもりませんが、自分自身のレジリエンスを獲得する中で出会った、ゲシュタルト心理学、アドラー心理学、交流分析、体とことばのことなどが、どもる人のレジリエンスを育てることと重なっていて、人の成長や、人生に必要なことは、けっこうシンプルなんだなあと感じました。ありがとうございました。

神奈川県 ことばの教室教員

今回初めてレジリエンスを学び、最初はなんか難しそうなことばだなと思っていましたが、2日間、お話を聞いて、これまで大阪吃音教室で学んできたことと重なる部分が多く、改めて自分の吃音を考えるいい機会になりました。

昔、ひとりでどもりに悩んでいた頃は、どもりが治らないと仕事はできない、いい人生を送れないと考えていました。しかし、大阪吃音教室で、どもりは治らないことを知り、どもりながらも様々な仕事をし、生き生きしている人たちに出会い、どもりながらも楽しい人生が送れるんだと安心したことを、石隈先生の講義を聞きながら思い出しました。

また、石隈先生の「失敗はチャンス」「問題が起こればチャンス」ということばが印象的でした。子育てや仕事で、失敗しないように子どもを支援しているときがあるが、「失敗したときにどう立ち直るか」を教えることが、その子の力を育てるんだと改めて気づきました。

この2日間、「子どものレジリエンスをどうやって育てたらいいのだろうか？」と考えていましたが、牧野先生が「レジリエンスを育てようと思って育てるのではなく、相手とのより良い関係の中で育つものだ」とおっしゃっていたのを聞いて、何も特別なことをするのではなく、普段から子どもの話をきちんと聞いて、子どもとしっかり向き合うことが、結果的にレジリエンスを育てることにつながるんだと実感しました。

講習会で学んだことを、仕事や子育てをする中で生かしていきたいです。有意義な2日間を過ごすことができました。どうもありがとうございました。

大阪府 どもる当事者・教員